

はすだね通信 第55号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成28年5月19日発行

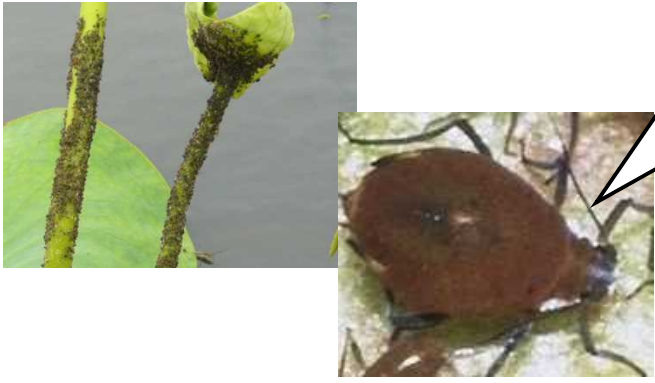
アブラムシの発生状況と早期防除について

普及センターでは、春先から初夏にかけてのアブラムシの発生状況(飛来数)調査を行っています。昨年までの調査の結果、平年の飛来数のピークは5月中~下旬となっています。

本年は5月第2半旬まではほぼ平年と同様の傾向です。

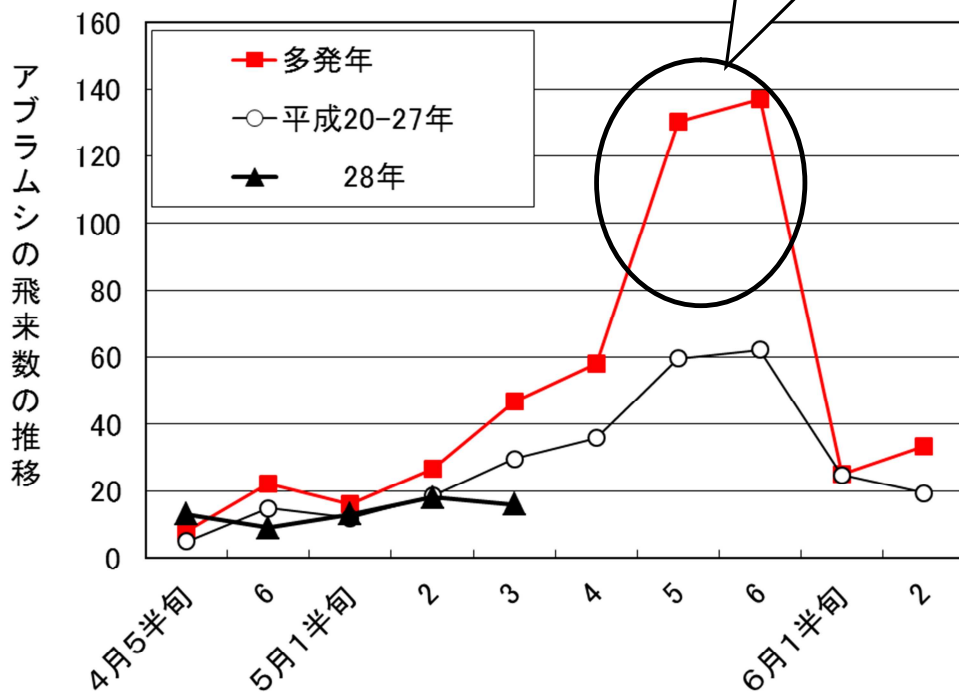
今後の季節予報から、初期防除の実施には5月中旬までの粒剤処理または5月下旬の液剤処理が有効と予想されます。

アブラムシは、卵で越冬し春先に羽の生えた成虫(有翅虫)となりほ場に飛来します。有翅虫はレンコン葉に寄生して羽の無いタイプとなり増殖します。普及センターでは有翅虫の飛来数を調査しています。



アブラムシ(クイクビアブラムシ)は、ハス条斑病ウイルスを媒介するとされています。条斑病に感染したハスは、ウイルスが全身に回り、肥大茎の表皮の下に筋が入ってしまいます。このようなレンコンは、販売できず、種バスにも使用できません。

アブラムシの発生状況



アブラムシの飛来数の増加は、平均気温が高い年ほど早くなる傾向があります。

多発生した年は平均気温が高く推移したため、飛来数の増加も早く起こりました(右図)。

平成28年は、平均気温はやや低いものの、5月第2半旬までの飛来数はほぼ平年並みに推移しています。気象庁の季節予報によると、5月の気温は平年並かやや高いと予想されています。今年も飛来のピークは5月下旬となる予想しています。粒剤を使用する場合、散布してから効果の発現に1~2週間程度要するので、早めの処理を行いきましょう。

農薬を使用する方は、必ず、使用する前にラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意して下さい。

環境にやさしい農業のため、水のかけ流しはやめましょう!!!